

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2694000056		
法人名	柊野福祉会		
事業所名	グループホーム上桂（さくら）		
所在地	京都市西京区上桂北村町114番地		
自己評価作成日	平成31年3月10日	評価結果市町村受理日	令和元年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/26/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&jigyosyoCd=2694000056-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人京都ボランティア協会
所在地	〒600-8127京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83-1「ひと・まち交流館 京都」1階
訪問調査日	平成31年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気のもと生活をして頂き、食事作りも出来るだけ手作りにこだわっている。また、希望されれば毎日散歩外出するなど、入居者様のニーズに基づきケアを行っている。また、ご家族に日々の様子を手紙にして送り、ご家族と入居者様の近況を共有している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム上桂」は平成23年4月に複合施設(グループホーム2ユニット、介護付き有料老人ホーム、小規模多機能型居宅介護)として開設されました。法人理念「『長生きしてよかった』と、心から喜んでいただける日が一日でも多くありますように」を踏まえ、事業所目標「入居者様の価値観や思いを尊重し、生活の主役となつていただく」と掲げています。職員は、洗濯や掃除、調理、お天気の良い日の散歩など、日常の営みを家庭的な雰囲気のなかで提供しています。特に料理では、魚の臭みの取り方や味見で利用者の指導があります。桂川小学校との交流では、4年生の福祉学習に参画し「認知症サポーター研修」を実施しています。生徒が来所して、学習発表の再演や昔遊びなどの交流が継続できています。玄関ホールには、生徒から届いた生き生きとした多くの絵が展示してあります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作成し、職員が常に確認できる場所に掲示している。	法人理念の下、事業所本年度目標は「入居者様の価値観や思いを尊重し生活の主役になっていただく」と掲げている。年度末に見直しをおこない、職員アンケートで来期の目標をつくり検討している。行動の指針も作成している。目標は、事務室やトイレに掲示して、ケース検討時に利用者主体の介護か、意見を尊重しているかなど、話し合っている。来期より法人方針で、3か月ごとに振り返りをおこなうことが決まっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣にある桂川小学校と交流を図っており、最近では、散歩に出かけると声を掛けてくれる子供さんがおり、入居者様も喜ばれている。	町内会に参加して回覧板で地域情報を得ている。近隣の神社の祭りでは、職員が神輿を担ぎ、玄関前を休憩所に提供している。桂川小学校の夏祭り、運動会、生活発表会に利用者と参加している。小学4年生の福祉活動に参画し、「認知症サポーター講座」を出前授業しており、生徒の来所も年2回ある。事業所の「上桂感謝祭」の、模擬店、介護相談、介護用具の展示などに、地域の方の参加がある。コミュニティホールは地域に開放しており、自治会や子育てサークル、各種ボランティアが利用している。アニマルセラピー、アロマセラピーは定期的にボランティアの来所がある。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年、感謝祭を開催し、地域の方にも来て頂き、事業所への理解を求める活動をしている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	三事業所合同で、二か月に一回開催をしている。サービス内容や事故等の報告を行い、参加者からの意見も頂き、地域の方々と意見交換の出来る場となっている。	会議は併設の3事業所が合同で開催し、各事業所から利用者や家族の出席がある。利用者状況、事故、行事、研修などの報告がある。「災害時に地域住民の受け入れをしてほしい」との依頼があり検討中である。家族に会議への案内はしていないが、議事録は送付している。職員の異動は多いが十分な報告はおこなっていない。	職員異動は家族も関心の高い事案ではないか。運営推進会議で報告して家族にも知らせるとか、職員の顔と名前や役職などが分かる工夫をおこなうことを望む。	

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談事や事故等があれば直接出向き、報告や相談を行っている。	行政への議事録の手渡しや諸報告、介護保険の更新手続きは管理者がおこなっている。常に相談できる関係は樹立しており、行政からの依頼にも対応している。京都市の集団指導は出席している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束禁止マニュアルをもとに勉強会を実施し、普段の支援で自分たちが知らないうちに身体拘束を行っていないか等を振り返り、ケアの改善に努めています。	法人でおこなう「リスクマネジメント委員会」で身体拘束を組み込み検討している。上桂事業所からも代表として職員1名参加している。事業所内研修もおこなっている。薬が過剰摂取にならないように、医師と家族を交話し合いをしており、日中の活動量を増やすなど取り組んでいる。玄関の施錠はしていない。帰宅願望の見られた時は、散歩、ドライブ、レクリエーションなどで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修を行い、理解を深めると共に、常に入居者様の身体状況や変化を確認し、注意を払っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事業所において、権利擁護や成年後見人制度について研修を行い、学んでいる。また、必要性を感じれば関係者と会議を行い、活用できるよう支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、入居契約書、入居の手引き等を渡し、説明を行っている。出来るだけ入居前に事業所の事を理解して頂き、納得して入居して頂けるように取組んでいる。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付のポスターを掲示し、何かあれば担当者と話が出来るようにしている。	家族からの意見や思いの把握は、面会時やサービス担当者会議時におこなっている。家族に伝える内容は連絡ノートに書き職員間で共有している。家族から「レクリエーションを増やしてほしい」「散歩を増やしてほしい」など要望がある。経過は、面会時や電話で報告している。家族へのサービス満足度調査を来期から実施する予定である。	

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月会議を持ち、職員の意見や要望を聞く機会を設けている。また、代表者が参加し、月1回事業所長会議を開催し、運営等に関する内容の意見が交換出来る機会がある。	管理者は、職員会議やケース会議で職員から意見を聞く機会があるが、今期は職員の異動で新人が多くなっており、意見が出ない状況がある。意見や提案は管理者がリードしている。また、日頃から職員の様子に気を配り、その都度悩みの相談にのっている。職員間で共有しなければならない事柄は、全体連絡ノート(ユニット共有)や情報交換ノート(ユニットごと)に書き、統一を図っている。個人面接は来期から予定している。	派遣の職員がパート職員より多い現状がある。一人ひとりの職員が、事業運営への参加意識を高める必要がある。課題を出して考え、出てきた解決案や対策案はできるだけ採用するなど、職員の自信につなげてほしい。地道な努力であるが、成果を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の人事考課表により、事業所の目標に基づいて個人の目標や評価を管理する事で、給与や賞与に反映させている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で、課題別研修を行い、学習する機会を設けている。また、法人が開催する研修にも定期的に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にグループホームが3事業所ある為、合同研修を行い、サービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に、ご本人の希望や様子を見ながら必要とされている支援を把握出来るように努めている。また、日々の関りの中から信頼関係が構築出来るように取組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や入居相談時、契約時に意向や要望を確認し、不安なく入居して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	しっかりと聞き取りを行い、必要とされているケアが提供出来るように努めている。		

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な空間の中で、日頃からコミュニケーションを図り、個々の残存機能を見極め支援をしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が面会に来られた時は、必ず近況報告を行い、情報を共有している。また、月1回写真付きの手紙を送り、ご様子を知らせている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人が訪ねて来られる事もあり、またご家族とご自宅に訪問される事もある。また、一階のガーデンハウスを利用されていた入居者様はレクリエーションに参加されたりと事業所間でも交流を図っている。	地域の「虹の会」に参加していた利用者は、友人に会いに行ったり、訪問を受けたりと交流を続けている。小規模多機能事業所を利用している知人とは、ドライブやレクリエーションを一緒に楽しんでいる。家族とともに馴染みの美容院に通う方もいる。利用者の要望でイオンモールや喫茶店にも出かけている。職員は毎月、利用者の日常の様子や介護計画での実施状況を、手紙(写真付き)で家族に知らせている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の人間関係等もふまえて座席を考えたり、お話が出来ない方には、職員が関わりを持ったり等して対応している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、年賀状や手紙を下さるご家族もおられ、必要に応じて相談等の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にご家族から今までの生活歴等を記入して頂き、情報の共有を行っている。また、普段の関りの中からご本人やご家族の思いがくみとれるよう支援している。	職員から「日頃から利用者の話に耳を傾け、心情に寄り添う言葉や態度で接するようにしており、利用者のペースに合わせた介護をおこなっている」との言葉が聞けた。特に趣味の継続の希望は強くあり、卓球台の購入やカラオケセットの継続借り入れなどをおこない、利用者の要望に応えている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報収集シート等を活用し、ご家族の協力を得ながら情報を収集し共有している。		

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	何かあればケース記録に残すようにし、職員間で情報を共有している。また、会議や引き継ぎノートを活用し、日々の支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	サービス担当者会議前に、ご本人やご家族の意向を確認し、ケアプラン原案を作成。会議には、必ずご家族にも参加して頂き、意向を再確認し、共にケアプランを作成している。	サービス担当者会議を、入居後1か月、3か月、その後1年ごとに利用者と家族の参加を得ておこなっている。医師からの情報も受けている。モニタリングは3か月ごとにケース会議でおこない、職員からの情報を取り入れている。アセスメントシートや介護計画全般の見直しは、利用者や家族の意向を聞きサービス担当者会議時にしている。状況に応じた見直しもおこなっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を出来るだけ詳しく記入し、職員間で情報が共有できるように努めている。また、引き継ぎノートを使用し、細かく伝達している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば、訪問マッサージ等のサービスも利用して頂けるように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での買い物や散歩等を通じて、地域と関りが持てるように取り組んでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医への受診はご家族に依頼し、継続して受診出来るよう取り組んでいる。また、かかりつけ医の往診が月2～4回あり、病院とは24時間連絡が取れるよう協力体制を築いています。	入居前のかかりつけ医を継続している利用者が2名いる。他は北山武田病院から往診を受けている。他に清水病院や三菱病院が協力病院になっており、緊急時や入院への支援がある。家族には希望の搬送病院も聞いている。看護師は週4時間の勤務であるが、24時間オンコールで相談できる。薬剤師が往診に立会い、薬の分包や相談を受けている。歯科医師、歯科衛生士は毎月往診があり、歯みがき指導がある。	

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は週1回勤務しており、入居者の状態の把握をして頂いている。また何かあれば主治医に連絡し、往診の段取りを整えて頂いている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時は、ご家族や病院との間に入り、報連相等の連携を図っている。入院中は面会に行き、状態の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時点で看取りに関しての聞き取りを行い、事業所が出来る事を説明し、同意を得ている。また、状態が変化した時に再度確認し、主治医とご家族にも参加して頂き、看取りの同意書を交わし、思いに沿ったケアが出来るよう取り組んでいる。	契約時に「看取りの指針」で説明し、家族から同意を得ているが、北山武田病院からも契約時と状態変化時に説明があり、同意書を得ている。職員は事業所内研修「ターミナル」をおこない、医療知識や実際の看取りについて学んでいる。過去5～6人の看取りがある。利用者によっては、職員と一緒に見送る方もいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルに基づき、事故発生時の対応については定期的に確認を行っている。また、年1回普通救命講習への参加も行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設している事業所と年2回消防署に協力頂き、消防訓練を行っている。訓練後は、消火器等の使用の仕方等も教えて頂き、全職員が災害に備えて対応出来るようにしている。	有料老人ホームの管理者が法人の防災委員を務めており、防災訓練や災害(地震、水害)の事業所内研修もおこなっている。防災訓練(3事業所合同)は年2回消防署の立ち合いがあり、利用者も参加し避難した。備蓄はレトルト食品、野菜、菓子類は3日分、水1週間分がある。地域の防災訓練への参加は今後の課題である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の人格を尊重し、対応している。不快な声掛けや関りが見られる時は、お互いが注意し合い、改善するよう心掛けている。	職員は事業所内研修で「接遇」「プライバシー保護」「倫理、権利擁護」を学んでいる。子どもにかけようような声かけはしない。おむつ交換時はカーテンを閉める。トイレ誘導は小声でおこなう。など、羞恥心にも配慮して、気になる言動は職員間で注意しあっている。	

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の関りやコミュニケーションから、ご本人の希望に沿った生活をして頂けるよう心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の思いを確認し、個々のペースに合った暮らしをして頂けるように心掛けています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	習慣的に化粧ををされている入居者様は、入居後も継続しておしゃれを楽しんで頂いている。また、月1回、訪問散髪に来て頂き、ご本人が希望されれば、散髪を依頼している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を一緒に考えたり、食事の盛り付けや片付けも出来るだけ入居者様と一緒にしようとしている。また、好き嫌いがある方には、代替えで対応し、少しでも食事を楽しんで頂けるよう取り組んでいる。	献立はメインの副菜のみ1か月分を決めている。他に副菜2品と汁物は、当番の職員が利用者の希望も入れ工夫している。食材は発注で週2回届くが不足の分は、利用者と買い物に行っている。利用者から味付けや魚の臭みの取り方を教わったりしている。利用者はそれぞれに、できる事に参加している。月1回、利用者の希望に添った食事会があり、バーベキューや出前をとっている。好評な手作りおやつはホットケーキ、どら焼き、クレープである。日常の会話で聞き取った嗜好に対して、数人で外食も支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量や栄養状態を把握したい入居者様には、チェック表を作成し、水分量や栄養が確保出来るよう取り組んでいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けを行っている。また、月1回歯科往診にて、口腔内の確認をして頂き、口腔内を清潔に保てるよう取り組んでいる。		

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレ内で排泄して頂けるよう取り組んでいる。介助が必要な方は、排泄間隔を掴み、トイレ介助や交換をしている。また、個々に合わせたパットを検討し、使用している。	トイレでの排泄を基本に、声かけや誘導をおこなっている。声かけで失禁がなくなり、現在、自立の方は5人いる。最近パットが不要になった方もいる。細やかな介護で成果がある。夜間のみポータブルトイレの利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便通が良くなるようになるべく野菜を献立に多く取り入れており、ご家族に相談し、ヤクルトやお茶を購入されている方もおられる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2～3回は入浴して頂いている。また、出来るだけ時間等も考慮し入浴出来るように取り組んでいる。	入浴回数は週2～3回である。同性介助を基本としている。お湯は一人ひとり入れ替え、好みのシャンプーやリンスの使用は自由である。季節の菖蒲湯やゆず湯を提供している。入浴を拒否する方には、時間や日を変えたりで対応しているが、散歩から帰ってきた時に入浴に誘うと、素直に応じる方もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は設けず、個々のタイミングで就寝して頂いている。また、ご自宅で使用されていた寝具をなるべく持参して頂き、良眠出来るよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師にも入って頂き、薬の変更等があればすぐに対応出来るように取り組んでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家事作業や趣味等これまでの生活の中で馴染みのあるものを見つけ、個々に合わせて提供している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	日常的に近所を散歩したり外出していたが、今まで毎日散歩に行かれていた方が、意欲低下もありあまり外出されなくなっている為、声掛けや関りに工夫が必要。また、派遣職員が増えており、外出が困難になってきている。	お天気の良い日は、近所の散歩や買い物に行っている。週1回は利用者の希望を聞き、ドライブも楽しんでいる。今年度課題の1つに「外出希望がない方や車椅子の方の外出が少ない」とある。「職員の異動などがあり、取り組みに十分な成果は出ていない」との反省があった。家族からの希望もある。	今期の課題でもあり、継続した取り組みを期待したい。事業所玄関前は広いスペースがある。気候の良い時にはボールや風船レクリエーション、体操などに外気浴を兼ねて利用する事を期待したい。

京都府 グループホーム 上桂（さくら）

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が出来る方に関しては、一万円程度の現金を管理されている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、先方の都合を確認し、ダイヤル代行や取次を都度行っている。また、携帯電話を持っておられる方もおられ、ご家族がかけてこられたら話ができるように居室に置いておられる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾りつけを行ったり、個々が作成された物を飾っている。また、要望に応じて、リビングの席を変えたり、少しでも居心地よく過ごして頂けるよう工夫をしている。	リビングはゆったりとした空間がある。対面式キッチン内には利用者の姿がある。廊下の奥に抱きかかえられないほどの深紅のバラ（造花）が飾ってある。男性職員から自作のプレゼントである。居室に続く廊下には、桜を配した多くの写真があり、春の訪れを告げている。掃除は利用者も一緒に毎日おこない、車椅子や歩行器も毎月整備している。外注業者に年2回、床のワックスがけを依頼している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う入居者様同士の席を用意したり、入居者様の関係性を考えながら居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、これまでご自宅で使用されていた家具等を持ち込んで頂き、安心して過ごして頂けるよう環境作りも行っている。	居室にはトイレがある。職員は自宅で使用していた物の持参を家族に依頼している。ベッドやタンス、椅子、テレビなど、できるだけ自宅と同じ環境と安全に配慮した設置をアドバイスしている。床に畳とカーペットを敷き和室で使用している方もいる。それぞれにお気に入りの小物や作品を飾っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	出来るだけ残存機能が活かせるような声掛けや関りを心掛けている。また、リビング内も安全に歩行して頂けよう工夫をしている。		